



再開館記念

# 不在

トウルーズ＝  
ロートレックと  
ソフィ・カル

Commemorative Reopening Exhibition:

*Absences*

Toulouse-Lautrec &  
Sophie Calle

三菱一号館美術館

Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo

2024.11.23(土)

2025.1.26(日)



再開館記念

# 不在

トウルーズ＝  
ロートレックと  
ソフィ・カル

Commemorative Reopening Exhibition:

*Absences*

Toulouse-Lautrec &  
Sophie Calle

三菱一号館美術館

Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo

2024.11.23(土)

2025.1.26(日)

# 再開館記念「不在」

トゥールーズ＝ロートレックと

ソフィ・カル

Commemorative Reopening Exhibition: *Absences*

Toulouse-Lautrec & Sophie Calle



MITSUBISHI  
ICHIGOKAN  
MUSEUM,  
TOKYO

三菱一号館美術館は2010年4月の開館以降、40本の企画展を開催してきました。2023年4月からは設備メンテナンスのために長期休館していましたが、2024年11月23日に再開館いたします。これまでの活動を踏まえ、今後も東京・丸の内のランドマークとして、人々が集い、語り合い、新たな発見があるような魅力ある展覧会を継続して開催していきます。美術館は、時代の変化に応じて、常にその活動を見直す必要があります。そのために、時代を映す鋭敏なアーティストの感性を借りることが、ひとつの最善策であると考え、2020年の開館10周年記念展として企画された「1894 Visions ルドン、ロートレック」の開催に際し、現代フランスを代表するアーティストのソフィ・カル(1953-)氏を招聘する予定でした。しかし、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、ソフィ・カル氏は来日を見送らざるをえず、現代アーティストとの協働というプロジェクトは再開館後に持ち越されることになりました。

リニューアル・オープン最初の展覧会となる「再開館記念『不在』―トゥールーズ＝ロートレックとソフィ・カル」では、当館のコレクションそして展覧会活動の核をなすアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック(1864-1901)の作品を改めて展示し、そこにソフィ・カル氏を招聘し協働することで、当館の美術館活動に新たな視点を取り込み、今後の発展に繋げていくことを目指します。ソフィ・カル氏は長年にわたり、「喪失」や「不在」について考察を巡らせていることから、今回の協働にあたり、「不在」という主題を提案されました。一方、トゥールーズ＝ロートレックは、「不在」と表裏一体の関係にある「存在」について興味深い言葉を残しています。

「人間だけが存在する。風景は添え物に過ぎないし、それ以上のものではない。」

1897年の旅行中、アンボワーズの風景に感動していた同行者に対して発せられたこの言葉に象徴されるように、トゥールーズ＝ロートレックは、生涯にわたって人間を凝視し、その心理にまで踏み込んで、「存在」それ自体に迫る作品を描き続けました。トゥールーズ＝ロートレックも彼が描いた人々も「不在」となり、今ではその作品のみが「存在」しています。ソフィ・カル氏から投げかけられた「不在」という主題を通して、私たちは改めて、当事者が関わることができない展覧会や美術館活動の「存在」について考えていきたいと思います。

The Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo (MIMT) opened in April 2010 and held 40 exhibitions before entering an extended closure for building maintenance in April 2023. This iconic landmark in Tokyo's Marunouchi district will reopen on November 23, 2024, drawing on its activities to date to present more captivating exhibitions that bring people together on a voyage of discussion and discovery.

Museums must constantly revisit their activities to reflect changing social needs. Believing that one of the best means of achieving this is to borrow the aesthetic of artists closely attuned to the times, MIMT invited leading contemporary French artist Sophie Calle (1953-) to participate in an exhibition entitled "1894 Visions: Odilon Redon and Henri de Toulouse-Lautrec," planned for 2020 as part of MIMT's 10th anniversary celebrations. The COVID-19 pandemic, however, forced Calle to cancel her Japan visit, and we had to shelve this collaboration with a contemporary artist until the museum reopened.

MIMT's first exhibition on reopening, entitled "Commemorative Reopening Exhibition: *Absences* -Toulouse-Lautrec & Sophie Calle", will again showcase works by Henri de Toulouse-Lautrec (1864-1901) from MIMT's own collection, which play a central part in the museum's exhibition activities. By inviting Sophie Calle to collaborate in the exhibition, we aim to introduce a new perspective on MIMT's museum activities which will contribute to our future development.

Having spent many years reflecting on loss and absence, Calle suggested "absence" as the main theme of the collaboration.

As it happens, Toulouse-Lautrec once made an intriguing observation on the obverse of absencenamely, existence:

"Only the human figure exists; landscape is, and should be, no more than an accessory..."

Uttered during an 1897 trip in response to a companion's admiration of the Amboise landscape, these words epitomize a life spent gazing deep into the souls of his fellow human beings to investigate the very nature of existence in his works.

Now, both Lautrec and his subjects are absent; only the works themselves exist. Calle's proposed theme of "absence" offers the opportunity to explore the existence of exhibitions and museum activities in which the original parties have no agency.



左：アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《エルドラド、アリスティド・ブリュアン》  
1892年、リトグラフ/紙、三菱一号館美術館蔵  
上：アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《ロイ・アラール》  
1893年、リトグラフ/紙、フランス国立図書館蔵



左：ソフィ・カル《使情》〔「なぜなら」シリーズより〕、2018年、写真／刺繍された布／額  
Installation photo: Claire Dorn, courtesy of the artist and Perrotin  
©Sophie Calle/©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3602

右：ソフィ・カル《パブロ・ピカソ「浴女たち」、1918年夏》〔「監禁されたピカソ」シリーズより〕、2023年、写真／額  
Installation photo: Claire Dorn, courtesy of the artist and Perrotin  
©Sophie Calle/©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3602



photo: Yves Géant

ソフィ・カル プロフィール

1953年、パリ生まれ。10代の終わりから7年もの間放浪生活を送り、26歳でパリに戻る。その頃より制作を始め、1980年より展覧会へ出品。以後、ロンドンのテート・ギャラリー(1998年)やパリのボンビドゥーセンター(2003年)での個展の他、各国の主要美術館にて個展を開催。第52回ヴェネチアビエンナーレ(2007年)フランス館代表のアーティストに選出された。日本では、原美術館にて開催された「限局性激痛」(1999年)や豊田市美術館(2003年)での個展開催の他、2019年には渋谷スクランブル交差点の街頭ビジョンにて映像作品《海を見る》(2011)が上映された。2023年秋からパリのピカソ美術館にて個展を開催。日本語に翻訳された著書に「本当の話」(平凡社、1999)がある。

## 再開館記念「不在」

― トゥールーズ＝ロートレック とソフィ・カル

会 期	2024年11月23日(土) ～ 2025年1月26日(日)
開館時間	10:00 - 18:00 金曜日と会期最終週平日、第2水曜日は20時まで ※入館は閉館の30分前まで
休 館 日	月曜日、12/31、1/1 但し、【トークフリーデー：11/25、12/30】、1/13、1/20は開館
入 館 料	一 般：2,300円 大学生：1,300円 高校生：1,000円

※価格はすべて税込 ※障がい者手帳をお持ちの方は半額、付添の方1名まで無料

〇併せて、小展示「坂本繁二郎とフランス」もご覧になれます。

三菱一号館美術館 再開館記念 お得なチケット各種ご案内 (オンライン2種・窓口のみ2種あり)	お客様のスタイルに合う チケットをお選びください
○使用期限つきチケット：1,900円 使用期限：11/23-12/22 販売期間：9月下旬展覧会サイト公開以降無くなり次第終了	窓口のみ ○8日間の1+1(ワン・プラス・ワン)キャンペーン：各券種当日券でもう1人同券種の方が入場可能【キャンペーン期間：11/23-11/30】 ご利用方法：一般+一般/大学生+大学生/高校生+高校生のチケットが発券されます。大学生と高校生は同伴の方もそれぞれ学生証をご提示ください。 ※他の割引との併用不可
○前売り券：一般2,100円 大学生1,000円 ※高校生は前売り券設定なし 使用期限なし、会期中有効 販売期間：9月下旬展覧会サイト公開以降11/22まで	○毎月第2水曜日17時から「マジックアワー」：1,600円 【ご利用日：12/11、1/8の17時以降】

Commemorative Reopening Exhibition: *Absences* — Toulouse-Lautrec & Sophie Calle

Date: Saturday, November 23, 2024 - Sunday, January 26, 2025

Venue: Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo

Hours: 10:00-18:00 [-20:00 on Fridays, the second Wednesday of the month and from January 20(Mon.) to 24(Fri.)]  
\*Last admission is 30 minutes prior to closing time.

Closed: Mondays, December 31 and January 1 [except November 25, December 30, January 13 and January 20]

Admission fees: Adult (¥2,300)/University students (¥1,300)/High school students (¥1,000)/Elementary and Junior High school students (FREE)

# 三菱一号館美術館

MITSUBISHI ICHIGOKAN MUSEUM, TOKYO

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-6-2

お問い合わせ：050-5541-8600 (ハローダイヤル)

展覧会URL：https://mimt.jp/ex/LS2024

# Toulouse-Lautrec

I ロートレックをめぐる「存在」と「不在」

II 「反復」による強調：ブリュアンのマフラーとアヴリルの帽子

III 「不在」と「存在」の可視化：ポスターとギルベールの黒い長手袋

IV 色彩の「不在」と線描の「存在」

V 形態の「不在」

VI テキストの「不在」女性の「存在」と男性の「不在」

# Sophie Calle

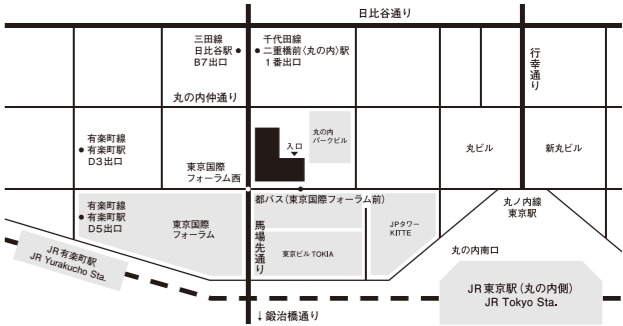
本展では、当館が所蔵するルドンの作品の「不在」にソフィ・カルが着想を得て制作した《グラン・ブーケ》(2020年)を初公開します。また、「不在」をテーマとして、自身や家族にまつわる「自伝」(2013年-)、テキストを刺繍した布をめくると写真が現れる「なぜなら」(2018年)、絵画の盗難事件に端を発した「あなたには何が見えますか」(2013年)、ピカソ(作品)の不在を示す「監禁されたピカソ」(2023年)というソフィ・カルの代表的なシリーズを紹介します。さらに、《フランク・ゲーリーへのオマージュ》(2014年)や映像作品《海を見る》(2011年)などソフィ・カルの多様な創作活動をご覧ください。

## ソフィ・カル氏トーク

日時：11月23日(土) 午後

場所：丸ビルホール

※講演内容、時間、申込方法などの詳細は10月上旬に展覧会Webサイトにて告知予定



ACCESS  
・JR 東京駅(丸の内線)徒歩5分・JR「有楽町」駅(国際フォーラム前)徒歩6分・東京メトロ千代田線「二重橋前(丸の内)」駅(1番出口)徒歩3分・東京メトロ有楽町線「有楽町」駅(D3/D5出口)徒歩6分  
・都営三田線「日比谷」駅(B7出口)徒歩3分・東京メトロ丸ノ内線「東京」駅(地下直結)徒歩6分

人を、想う力。街を、想う力。三菱地所

ソフィ・カル《今日、私の母が死んだ》〔「自伝」シリーズより〕部分、2013年、写真／テキスト／額 Installation photo: Claire Dorn, courtesy of the artist and Perrotin  
©Sophie Calle/©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3602 アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《メイ・ミルトン》、1895年、リトグラフ/紙、三菱一号館美術館蔵